

新しい年をどのように迎えましたか？ 2023年も、生徒のみなさんが多くの本と出会える一年になるよう、願っています。

まもなく、進級や進学など、みなさんが新しい環境に向かっていく時期になります。不安や緊張の時期ですが、そういう時こそ読書をしてみませんか？

ではまず、本校の先生からみなさんへのおすすめ本の紹介です！

～私のおすすめの本～

吉澤 和彦先生

「月と六ペンス」など代表作があるサマセット・モームは、読書の楽しみについて「知的な楽しみほど長持ちし、また満足が得られる楽しみはほかにないことを悟った者は、英知に富んだ人と言えよう。読書の習慣を身につけるがよい。そして、良質な本を選ぼう。いつまでも心に残る一冊を見つけよう。自分を支えてくれる一冊があるだけで何があっても大丈夫と思えるものだから」と言っている。

本を読むことで、多くのことが期待できます。理解力が増す。知識が増える。表現力が豊かになる。様々な体験を空想できる等読書には、限りない素晴らしさが潜んでいます。

そこで、みんなに読んでほしい一冊は、近代の純文学作品です。数十年あるいは百年以上前の人物と対話できるのが魅力だと思います。今回は、太宰治の「人間失格」です。これを読まずして本好きになれない作品です。人間観察のすごさが書かれていると思います。葉蔵（主人公）のだらしなさに共感するか。反発するか。それは君次第。ぜひ一読を！

「人間失格」太宰 治（著）



文響社版



角川文庫版



岩波文庫版

名作なだけあって、いろいろな出版社から出ています。表紙を見比べても面白いと思いました。

漫画版や英語版もありますし、映像化もされています。「難しいのでは？」

「読むと落ち込みそう」などと尻込みせず、まずは自分に合ったバージョンで触れてみてもいいと思います。

～図書委員のおすすめの本～

「運転者」 喜多川 泰(著)

(株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン)

《本の紹介》

『君と会えたから…』や『「また必ず会おう」と誰もが言った。』など数々のベストセラーを出した、喜多川泰の小説仕立ての自己啓発本。累計98万部を突破した、大ベストセラーである。



《本文より》

運が、劇的に変わる時、場というのが、人生にはあります。あなたにも。運は〈いい〉か〈悪い〉で表現するものじゃないですよ。〈使う〉〈貯める〉で表現するものなんです。先に〈貯める〉があって、ある程度貯まったら〈使う〉ができる。運は後払いです。何もしていないのにいいことが起こったりしないんです。周囲から〈運がいい〉と思われる人は、貯まったから使っただけです。

《図書委員：田所海里さん（2-3）より》

私は、読書感想文の課題本としてこの本と出会いました。人が社会でどうしても当たってしまう、壁や不幸についての著者の考えが、主人公の修一が体験する不思議な出来事を通して伝わる作品です。この本を読んで、「運」についての私の考え方が変わりました。作中の会話文の内容に、自分の態度で運のたまり具合が決まるというシーンがありました。そこから私は、普段から、どんなに辛いときでも笑顔を絶やさないようにしようと思いました。

この作品は、伏線が至るところに張り巡らされており、意外なところで話の展開に驚かされ、非常に面白いと感じました。また、心情を描く表現が素晴らしく、登場人物のもどかしい思いや行き場のない怒りなど、言葉にするのが難しい感情も見事に表現していました。そのため、話の展開が分かりやすく、どんどん不思議な出来事に引き込まれていきました。

このような分かりやすい表現に加えて、登場人物の視点もはっきりしているので、読書が苦手な人にも読みやすい作品です。また、辛いときこそ一歩踏み出してみよう、という前向きな気持ちになれるので、壁に当たってしまった人や、嫌なことがあった人にもオススメです。ぜひ、読んでみてください。

説教じみた「自己啓発本」に興味を持たない人でも、この作品は小説として読めるのでいいですね。読んだ後、今までと違う自分に会えるかもしれません。新しい年度が近づくこの時期に最適な一冊ではないでしょうか？